

～看護部長のあいさつ～



東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されたのはついこの間だったような気がしますが、朝夕肌寒くなり布団から出るのがつらい季節がやってきました。新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、面会制限が続く患者さんやご家族の皆さんにはご不自由をおかけしております。

約2年におよぶコロナ禍で、感染管理認定看護師が注目されていますが…当院では、令和2年12月に『がん化学療法看護認定看護師』が加わり、現在5分野5名の認定看護師が活動しています。日本看護協会の重点政策では看護師の役割拡大や人材育成が謳われており、2026年には従来の認定看護教育課程は終了し特定行為研修が組み込まれた教育課程に変更される予定です。今後は、当医療圏でもさらに専門性の高い看護師が活躍することになると思います。

さて、9月下旬に永久津小学校の生徒さんから、シトラスリボンと手紙をいただきました。シトラスリボンプロジェクトは、愛媛の有志が特産の柑橘にちなんで名づけられ、リボンの3つの輪には地域、家庭、職場もしくは学校の意味があります。コロナ禍で生まれた差別、偏見、誹謗中傷を防ぎ、ウイルスに感染してもだれもが地域で笑顔ある暮らしを取り戻せるひとの輪をつくるのが目的です。

スタッフ全員、皆さんが一生懸命作ったリボンとその思いをユニフォームにつけて働いています。ありがとうございました。

約0.1μmのウイルスに翻弄される日々ですが、私たち看護チームスタッフ全員で地域の皆さんと共にそれぞれができることをしていきたいと考えています。



看護部長 武田 愛

理念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します

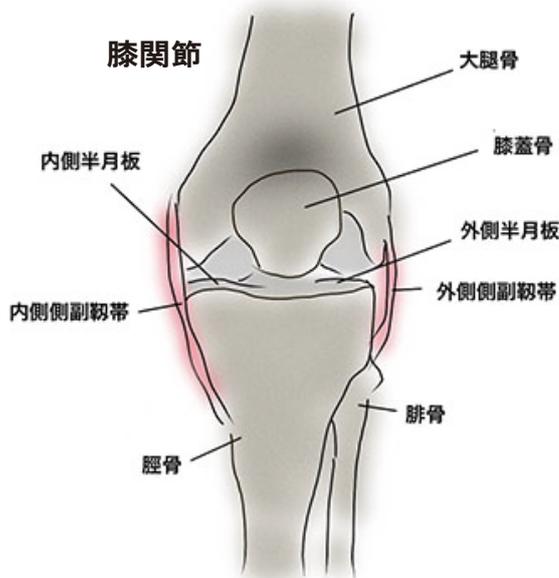


診療部紹介 整形外科

毎日に寒さが加わり木犀の香りが密かに漂う季節となって参りました。さらに寒さが増してくると稲刈り作業などによる疲労の蓄積とあいまって腰痛や膝痛を自覚され当院を受診される患者さんが増えてきます。

腰痛も多いのですが今回は膝の痛み、特に膝関節症に対する治療について述べたいと思います。

もともと膝関節は人体の中で最も大きな荷重関節です。大腿骨と脛骨によって形成される関節で、大腿骨と脛骨が接する部位は弾力性のある軟骨で覆われています。歩行時に膝関節にかかる荷重は体重の2～3倍、階段昇降時には5倍（体重50kgの方で250kg）にまで及ぶといわれます。この荷重がかかり続け関節軟骨の弾力性が失われることとなります（軟骨の老化）。



また、肥満や素因（遺伝子）、外傷や感染などが原因で軟骨の摩耗が生じることもあります。軟骨の摩耗により直接、大腿骨と脛骨が接することとなり、骨硬化や骨棘形成、関節裂隙の狭小化、外観的にはO脚を呈することとなります。症状としては初期には立ち上がり・歩き始めなど動作の開始時に痛み、安静にて軽減します。膝関節の変形が進むにつれて正座や階段昇降が困難となり、末期になると安静時にも痛み、膝関節が拘縮して歩行も困難となります。治療としてはリハビリや関節注射などの保存療法、骨切り術や人工関節置換術があります。

西諸地域は宮崎県内でも高齢化が著明であり、末期の変形を来している方も多数おられます。早期の治療介入がその後の歩行できる時間、自分で動ける期間を延長し“生活の質”を維持することに重要と思われる。膝痛に関わらず腰痛や股関節の痛みなどある場合には、お気軽に相談していただければ嬉しく思います。



整形外科 上通 一師

コメディカル紹介 臨床検査室



臨床検査室には臨床検査技師 5 名が在籍し、人体から採取した血液、尿、喀痰、組織、細胞、体腔液などの検体を調べる検体検査業務、患者さんの体から直接情報を記録して、体の状態を調べる生理機能検査業務を行っています。これらの検査結果は医師が病気の診断・治療・経過観察を行っていく上で重要な情報となり、夜間や休日にも緊急検査や輸血が行える様に、24 時間検査技師が対応しています。

各種検査の中から、今回は輸血検査について紹介したいと思います。血液型占いや性格診断など、私たちの身近でよく目にするのは、ABO 式血液型です。そのほかには代表的なものとして、Rh 式血液型があり、ABO 式血液型の後に「+」や「-」で表現されます。この Rh 式血液型にも CcDEe と 5 種類あります。血液型の種類は他にも約 300 種類ほどあると言われています。



私たち臨床検査技師は、このような血液型を調べ、血液の中に他の血液型に対する抗体を保有していないかを調べます。これまでに輸血を受けたり妊娠したりした経験のある場合には、他の血液型に対する抗体を保有する場合があります。輸血が必要となった患者さんに対しては検査を行い、患者さんに合った輸血用血液製剤を選択します。さらに、製剤と患者さんの血液との反応をあらかじめ調べ、安全で効果的な輸血に繋げていきます。

臨床検査技師 神谷 英輝

コメディカル紹介 薬剤室



小林立病院の薬剤室には薬剤師 6 名、薬剤業務補助看護師 1 名、事務職員 2 名が所属しており、薬の適正使用のため業務を行なっています。

適正使用とはどういうことでしょうか。薬剤師の起源を振り返ってみると、1240 年ごろ、フリードリッヒ 2 世が薬による暗殺を恐れて別の者にチェックさせるようになったことだといわれています。およそ 800 年経った現在も変わらず医師が処方した薬を薬剤師が確認するという「医薬分業」が続いています。現代において暗殺される心配はまずありませんが、薬の飲み合わせや副作用には気をつけなければなりません。また、薬はたくさん飲むほど健康になるものではなく、状態に合わせて適量があり必要量を使用することが大切です。このように薬剤師には用法、用量、飲み合わせ、副作用など様々な観点から処方された薬が適正であるか確認することが求められます。

病院では多くの医療職種が従事しており、それぞれが専門性を発揮し、協力することで医療が行われています。薬剤師は薬を専門にする職種です。入院中の相談はもちろんのこと、錠剤が飲みにくい、飲み忘れてしまうことが多いなど薬について困り事があれば、お気軽にお尋ねください。



副薬剤室長 石橋 直哉

看護部紹介 外来化学療法室



朝晩の寒さも日に日に増し、冬の季節になりました。

外来スタッフ 19 名は寒さに負けず、感染対策を行いながら、日々よりよい看護が提供できるように励んでいます。

今回は『外来化学療法室』を紹介します。

当院の外来化学療法室は、4床のベッドと1台のリクライニングベッドがあり、がん化学療法を受ける患者さん専用の部屋となっています。がんの治療と聞くと、入院するものと思いがちですが、治療薬の研究もすすみ、副作用を軽減する方法も増え、自宅で普段通りの生活を送りながら治療を受けることができる対策が進んでいます。

外来化学療法室を担当する看護師は、医師・薬剤師・栄養士・リハビリテーションスタッフ・メディカルソーシャルワーカー等と連携をとりながら、がん化学療法を受けられる患者さん・ご家族に安全・安楽な治療を提供できるように努めています。部屋には、治療に伴う副作用対策のパンフレットやウィッグのサンプルなども展示しています。外来・入院問わず、治療を受けられる患者さんやご家族からの相談等の対応を行っていますので、遠慮なくお問い合わせください。



外来主任看護師・がん化学療法看護認定看護師 温水めぐみ

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp

スタッフのひとこと

今年も残すところ約1ヶ月となりました。コロナ禍ということもあり、あっという間の1年だったような気がします。多くの行事が制限され、毎年恒例のイベントに参加する事もなく、大人の私達でさえ割り切れない

日々を過ごしたように思います。ワクチン接種率も7割を超えてきており、感染患者も減少傾向となり、少しずつ以前の生活に戻りつつあります。2022年こそは明るい年になることを切に望んでいます。

医師事務作業補助者 嶺石 利菜

